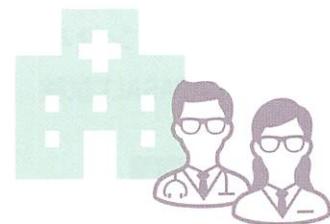




全国病院・クリニック訪問

患者の多様な個性を何よりも重視し、だれもが長く続けられる治療を目指す



JR 新大阪駅 1 番出口から徒歩 2 分という抜群の立地に、ふくだ内科クリニックが移転したのは 2008 年のことだ。日中だけではなく夜にも診療時間を探しておらず、その時間帯には土地柄から、会社勤めの現役世代が多く通院しているという。

院長である福田正博先生は患者の話に熱心に耳を傾けつつ、穏やかな口調で患者に語りかけ、“ベストで

はなくベターを目指す”診療を実践されている。

また、院内のデータベースをご自身で構築されたり、AGEs（終末糖化産物）測定機器を導入されたり、糖尿病治療に役立つ動画を製作・発信されるなど、創意工夫の精神にあふれていらっしゃる。25 年以上にわたって続く糖尿病専門クリニックにおける診療の真髄を探る。

今回の
訪問先

医療法人弘正会 ふくだ内科クリニック

所在地：〒532-0003 大阪市淀川区宮原 1-6-1 新大阪ブリックビル 2 階
TEL : 06-6398-0203
<https://dmclinic.jp/>



スタッフ

- 医師：常勤 1 人、非常勤 1 人
(糖尿病専門医 2 人)
- 看護師：常勤 1 人、非常勤 5 人
(うち CDEJ 1 人、LCDE 2 人)
- 管理栄養士：常勤 1 人、非常勤 2 人
(うち CDEJ 2 人)
- 臨床検査技師：非常勤 2 人
(うち CDEJ 1 人)
- 医療事務：常勤 1 人、非常勤 2 人
CDEJ：日本糖尿病療養指導士
LCDE：地域糖尿病療養指導士

指導・活動内容

JR 新大阪駅近隣のオフィス街にあり、完全予約制で糖尿病診療を行っています。オフィスではたらく人のために診療時間は 17:00~19:00 と夜診も設定、通院患者の 65% が男性、52% が 65 歳未満と現役世代のサラリーマン

がが多いクリニックです。最近は肥満糖尿病患者も増加傾向にあります。当院では薬物治療だけでなく管理栄養士を常時 2~3 人配置し適宜ワンポイント指導を行うなど食事指導にも力を入れております。

施設・設備

JR 新大阪駅北側のオフィスビル 2 階のクリニックフロアの一角に位置する、広さは 40 坪とコンパクトなクリニックです。待合室には大型液晶ディスプレイを設置し、糖尿病に関する情報を待ち時間に視聴できるよう工夫しています。

検査体制

初診時には AGEs センサ < RQ-AG 01J > にて皮膚 AGE を測定、眼底カメラ NIDEKK は院長が撮影、診察ごとに HbA1c は東ソー G11、血糖は



HOST

院長
福田正博先生
Fukuda, Masahiro

グルテストミントにて即時測定、緊急検査はピッコロエクスプレスで CRP、生化学などの院内測定体制をとっています。体組成 (TANITA MC-980A) も受診ごとにチェック実施、その他、適宜、頸動脈エコー、腹部エコー、PWV、ECG、胸部 X 線は臨床検査技師にて実施。同一ビル内のクリニックフロアには、内視鏡クリニック、心療内科、婦人科があり、フロア内での連携を行っています。

またクリニックに隣接して大阪回生病院があり、CT・MRI などの検査を連携しています。心疾患は、国立循環器病研究センター・桜橋渡辺病院と、CKD は北野病院・大阪府済生会中津病院・淀川キリスト教病院などの腎臓内科、がんは大阪国際がんセンターと、それぞれの専門病院と連携をしています。

(2022 年 1 月現在)



STAFF'S VOICE

院長 福田正博先生

「患者さんと長くお付き合いをしていると、糖尿病治療に対して患者さんが求めている目標が、われわれ医療者が求めているものと若干ずれてしまうことをしばしば経験します。その結果、治療中断に陥ることも経験します。それをするだけ無理なく両者の目標を同じ方向へすり合わせていくことが、治療継続のポイントではないかと思います。はやりの言葉で言うならばSDGs——持続可能なゴールを考えて、ベストではなくベターな診療を気長に続けることが大切であると思っています」

「初診時には患者さんにアンケートの記入をお願いしており、生活全体の細かい部分まで踏み込んだ質問に回答していただいている。家族構成や趣味・ストレス解消法など、直接糖尿病には関係ないと思われるような項目もありますが、生活全体を把握することでその人の人柄や個性に近づき、療養指導に生かすことができます。記述式ではなくほぼ全てをチェック項目として回答しやすくしており、ウェブサイトに掲載してあるので時間節約のためにも事前にダウンロードして記述していただいている」

看護師 田代志穂先生



「採血や検査をしながらお話しするなかで患者さんの情報を入手して院長に伝え、診察室での時間を有効活用できるようにしています。患者さんとお話しする際は、できるだけ話しやすい環境をつくろうと心がけています。患者さんの年齢も幅広いので、言葉がけのやりかたは、その人・そのときの状況で使い分けています」

管理栄養士 潤川由利子先生



「療養指導はまず傾聴からというのを大切にしています。患者さんのお話をたくさん聞くと、その方ならではの情報、例えば趣味や職業の話題になることもありますので、そのような情報も療養指導に生かします。笑顔で温かく話しやすい雰囲気をつくり、一人ひとり性格が違うそれぞれの患者さんに合わせ、ときには親しみを込めて、ときにはかしこまった態度で接するようにしています」

管理栄養士 一柳高湖先生



「どの患者さんにもお声かけをして『いつでも気にかけていますよ』というメッセージをそれとなくお伝えしているのが当院の特徴かと思います。患者さんに栄養指導する際は、難しい専門用語ができるだけ使わず、患者さんに理解していただけるように話しています。以前お話しした内容について『ずっと守っているよ』とか『続けたらよくなったよ』などの言葉をいただけたときは嬉しいですね」

管理栄養士 諏訪 茜先生



「当院に勤務してからまだ日が浅いので、勉強中の身です。看護師や管理栄養士だけでなく、院長の患者さんへの話しかけかたなども観察しています。わたしはついつい柔らかい感じの話しかたになってしまいますが、患者さんによっては厳しめに言い切るような口調できっちりと話したほうが伝わる場合もあるので、少しずつでも取り入れていきたいと思っています」

臨床検査技師 横山有子先生



「初診患者さんの聞きとりの際、つい一方的に質問してしまいがちなんですが、たくさん話したい患者さんもいらっしゃるので、できるだけお話をうかがうようにしています。こちらもはじめての患者さんと対面するときは緊張して『これでいいのかな』と心配になりますが、帰り際に『どうもご親切にありがとうございました』などと声をかけていただくと安心します」



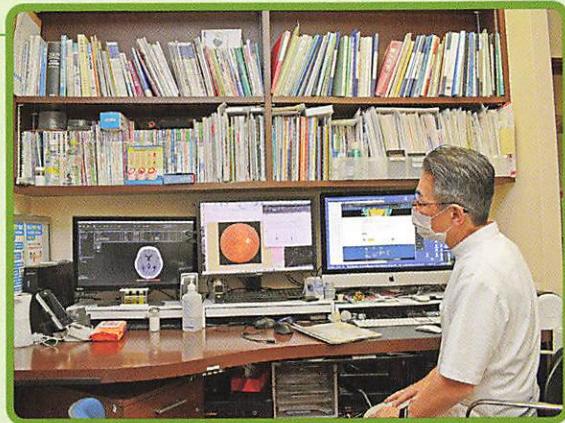
ふくだ内科クリニックの皆さんと訪問者・山崎裕自先生



GALLERY

診察室の3つのモニター

電子カルテ、DICOMサーバーなどOSの違いや用途に合わせて使い分けられている。



待合室

背もたれ椅子の正面には大きなモニターが設置され、クリニックからのお知らせや福田先生自らが製作した糖尿病に関する知識を啓発する動画が映写される。この動画は、動画投稿サイト内のクリニックのチャンネルで視聴できる。



炭水化物が多い食品は?

主食となるもの、果物、野菜、パン、おにぎり、ご飯などの碳水化物を多く含むものです。

コレステロールが気になった時の食事

LDLコレステロールに注意

コレステロールは、LDL(悪玉コレステロール)と、HDL(善玉)コレステロールがあり、LDLが高めになると、血管の壁に付着して血管硬化を引き起こす原因になります。HDLは逆に血管を広げ、血管内膜を保護する効果があります。LDLコレステロールを減らすには、低脂肪の食事、運動を充実させ、コレステロールを意識に召しましょう。

シックデー

体調がすぐれない時の食事はどうしているか?

体調がすぐれない時は、お食いしやすくて栄養も取れる軽食がいいでしょう。またお食いなさいやインスリンを中心とした治療をされている場合は、お食いしやすい状態で血糖値を測定しておきましょう。

脂肪肝の改善の食事

肝心なる食事と運動

脂肪肝とは、肝臓に脂肪が蓄積される病気です。脂肪肝は大変な病気で、放置すると肝硬変や肝細胞癌になります。脂肪肝によっては、肝臓の炎症にならぬか心配になります。



栄養指導グッズ

棚に並んでいた実物・モデル・資料などがぎっしりと並ぶ。飲料用ペットボトルの実物には、実際の飲料に含有されているのと同量の砂糖が詰められている。

脂肪肝の改善の食事

肝心なる食事と運動

脂肪肝とは、肝臓に脂肪が蓄積される病気です。脂肪肝は大変な病気で、放置すると肝硬変や肝細胞癌になります。脂肪肝によっては、肝臓の炎症にならぬか心配になります。

痛風の時の食事

アレルギー性の食事

痛風は、体内で尿酸が過剰に作られる病気です。尿酸は、体内で尿酸リサイクルによって排泄されています。尿酸リサイクルによって、尿酸が正常になります。尿酸を排泄する度合を高めると、尿酸の炎症になります。

カリウムが多い食品 (1食あたりの含有量)

野菜	(1/2杯) 150g 600mg
大根	(1/2杯) 150g 612mg
カブ	(1/2杯) 140g 576mg
セリ	(1/2杯) 180g 520mg
セロリ	(1束) 150g 514mg
とうもろこし	(1本) 150g 434mg
人参	(1本) 140g 354mg
アーティチョーク	(1本) 150g 350mg
小松菜	(1束) 50g 260mg
ほうれん草	(1束) 30g 207mg
キャベツ	(100g) 250mg

イモ類・豆類

芋	(1杯) 80g 422mg
大根豆	(1/2杯) 140g 420mg
豆乳	(1杯) 200ml 391mg
おから	(1カップ) 100g 350mg
納豆	(1束) 50g 330mg
落花生	(1本) 11g 316mg
ヨモギ	(1束) 200g 300mg
じがいも	(1杯) 135g 255mg

飲み物

牛乳	(1杯) 200ml 309mg
オレンジジュース	(1本) 200ml 391mg
トマトジュース	(1本) 200ml 390mg

フルーツ

バナナ	(1個) 200g 432mg
桃	(1個) 200g 400mg
キウイ	(1個) 80g 203mg

手づくりの栄養指導資料

患者に説明したり手渡したりするA4版1枚にまとめられた資料。疾患別のほかに、コンビニ食・外食・妊婦など、さまざまなテーマで用意されている。



糖尿病川柳

クリニックに通院する患者を対象に川柳を募集し、待合室の掲示板で発表している。糖尿病治療の情景や糖尿病に対する思いなどがユーモラスに綴られている。



訪問者：山崎裕自 先生 Yamazaki, Yuji
関西電力病院 糖尿病・内分泌代謝センター

医師・医療スタッフの視点



I 小まわりの効いたチーム医療

付せんを使ったカルテへのメモや、毎日の診療後にブチミーティングを行うことで情報共有を大事にされていました。患者さんがクリニックの待合室で過ごしているときにかわすさりげない会話で、“ブチ栄養指導”、“ブチ療養指導”が始まったり、合間の時間を有効に使う管理栄養士さん・看護師さんの熱意を感じました。初診の患者さんは、看護師と管理栄養士2人のコンビネーションで1時間ほど使ってじっくり患者さんの問診をされるそうです。患者把握やスタッフ間の情報共有について、看護師・管理栄養士・臨床検査技師の皆さんのがクリニック内を自分自身がこまめに動くことを挙げておられたのは印象的でした。

2 “ベストよりもベター”を考える糖尿病加療

「必ずしも医療者が考えるベストな治療が継続できるとは限らないですから」と福田先生はおっしゃられました。確かに、食事療法・運動療法・薬物療法、すべてを完璧にやり続けることはよっぽどの完璧な人間でないとできないでしょう。患者さん一人ひとりを把握し、患者さんと同じ方向を向いて継続可能な加療を考えてあげることで患者さんにとってはベストな治療を目指しておられました。

3 発信する糖尿病教育・療養指導

福田先生は、現在は大阪府内科医会の会長も含め、多くの医師会活動に積極的に関わっておられます。多くの講演やテレビ出演もされ、本も出版されておりますが、最近では、ご自身が撮影を行い定期的に動画投稿サイトで発信されています。また、栄養指導をテーマ別にわかりやすくまとめたオリジナルのパンフレットを多数用意したり、ふくだ内科クリニックの定期新聞を発行したりとさまざまな媒体を使って糖尿病教育・療養指導に取り組んでおられました。福田先生の糖尿病教育に対する熱意とコツコツと継続する取り組みに感服いたしました。



取材を終えて

山崎先生 「クリニック全体が一丸となってチーム医療に取り組まれている様子に感銘を受けました。医療スタッフの皆さんから“患者さんはみんな福田先生のことが好き”“何年間か治療中断した患者さんでもまた戻ってくる”“福田先生の説明のしかたやたとえがとてもわかりやすい”などといった称賛の言葉をおうかがいし、福田先生との信頼の強さを感じました。本日はありがとうございました」

本取材は2021年11月5日に実施しました。先生方には、写真撮影時のみ適宜マスクを外していただきました。